

平成16年度 第1号 No.13

発行  
財団法人 日本知的障害福祉協会  
社会福祉士養成所  
〒105-0013 東京都港区浜松町2-7-19  
秀和第二浜松町ビル6階  
TEL:03-3438-0984

# 養成所ニュース

## 第16期生327名が受講スタート!

### 「第16期・新受講生を迎えて」



財団法人 日本知的障害者福祉協会  
社会福祉士養成所

所長 加藤 正仁

この度、財団法人日本知的障害者福祉協会が開講する社会福祉士養成所の16期生として入所されました327名の皆さんには心からお祝い申し上げます。そしてここに至るまでには皆さんお一人お一人の、支援を必要とする人々に対する支援のプロとしてのさらなるスキルアップと人間的にももっと飛躍成長をしたいという熱く激しい精神の高揚、決意があったものと思います。

またその決意を支えてくれた日々の生活の中での多くの人々の理解と励ましもあったことでしょう。その意味では皆さんの選択と決断には尊く重いものがあり、そのことに対する当養成所に課せられた課題と責任も大きなものがあり身も心も引き締まる思いです。「もっと自分らしく、安心と安全の内に地域の中で」という今日の理念の確保には彼らのニーズを地域のサービスにアクセスする機能、ケアマネジメントが不可欠です。さあ皆さんの出番です。奮闘を期待します。

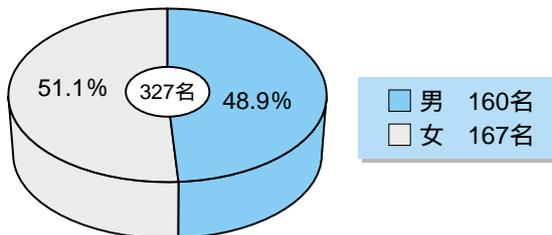
### 第16期生の概要(4月1日現在)

第16期社会福祉士養成所の受講生は、327名となりました。  
概要については下記の通りです。

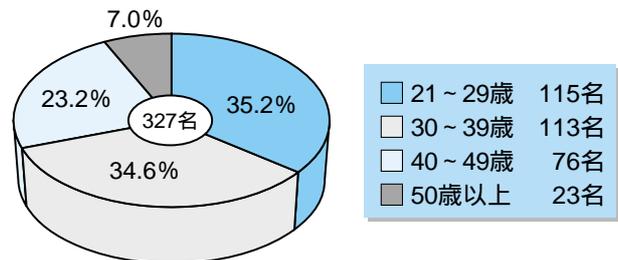
応募状況(過去3年間)

年度(期生)	応募者数	入学者数
平成14年度(14期生)	647名	364名
平成15年度(15期生)	545名	324名
平成16年度(16期生)	534名	327名

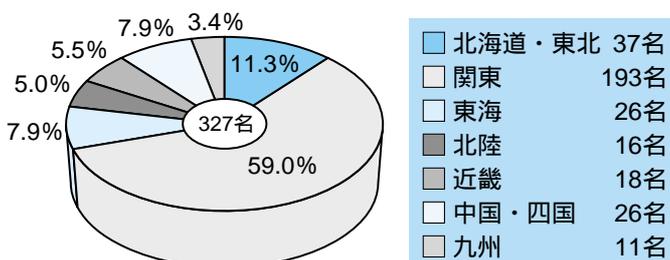
受講生男女比



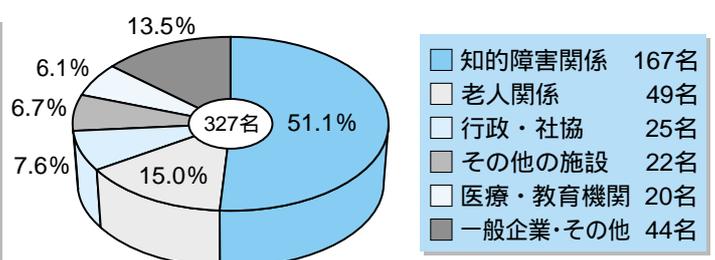
年齢別分布



地区別分布



勤務先種別



# 国家試験合格状況

第16回社会福祉士国家試験において本養成所より199名が合格しました。 昨年度(第15回試験)は193名+追加合格者でした。

## これまでの国家試験の結果

	受験者数(名)	合格者数(名)	合格率(%)
第1回試験	1,033	180	17.4
第2回試験	1,617	378	23.4
第3回試験	2,565	528	20.6
第4回試験	3,309	874	26.4
第5回試験	3,886	924	23.8
第6回試験	4,698	1,049	22.3
第7回試験	5,887	1,560	26.5
第8回試験	7,633	2,291	30.0
第9回試験	9,649	2,832	29.4
第10回試験	12,535	3,460	27.6
第11回試験	16,206	4,774	29.5
第12回試験	19,812	5,749	29.0
第13回試験	22,962	6,074	26.5
第14回試験	28,329	8,343	29.5
第15回試験	33,452	10,501	31.4
第16回試験	37,657	10,733	28.5
計	211,230	60,250	28.5

## 第16回社会福祉士国家試験合格基準

次の2つの条件を満たした者を合格者とする。

1-1. 総得点150点に対し、得点85点以上の者(総得点の60%程度を基準とし、問題の難易度で補正した。配点は1問1点である。)

1-2. 試験科目の一部免除を受けた受験者(社会福祉士及び介護福祉士法施行規則第5条の2)総得点70点に対し、得点42点以上の者(総得点の60%程度を基準とし、問題の難易度で補正した。配点は1問1点である。)

2. 1-1又は1-2を満たした者のうち、1-1に該当する者にあつては、試験科目(ただし、社会福祉援助技術については、「一問一答問題」と「事例問題」をそれぞれ別個の試験科目とみなす。)14科目(1-2に該当する者にあつては、6科目。)の各科目すべてにおいて得点があつた者。

## 第16回社会福祉士国家試験受験状況

受験者数	合格者数	合格率
37,657人	10,733人	28.5%

## 第16回社会福祉士国家試験正答一覧

社会福祉原論										
問題番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
正答	3	3	5	4	2	3	2	1	4	1

老人福祉論										
問題番号	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90
正答	5	5	1	1	3	1	4	2	2	5

社会保障論										
問題番号	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
正答	2	5	3	4	5	2	3	3	1	3

障害者福祉論										
問題番号	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
正答	1	5	3	3	3	1	3	2	1	4

公的扶助論										
問題番号	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
正答	2	5	1	4	正答なし	1	4	3	4	正答なし

児童福祉論										
問題番号	101	102	103	104	105	106	107	108	109	110
正答	4	4	3	4	2	正答なし	1	5	5	1

地域福祉論										
問題番号	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40
正答	3	1	2	5	3	3	4	3	4	4

社会福祉援助技術(一問一答問題)										
問題番号	111	112	113	114	115	116	117	118	119	120
正答	2	4	2	4	4	1	5	3	3	2

心理学										
問題番号	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
正答	2	1	5	1	3	2	4	5	3	3

問題番号	121	122
正答	1	4

社会学										
問題番号	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60
正答	4	1	2	4	5	3	5	2	5	2

社会福祉援助技術(事例問題)										
問題番号	123	124	125	126	127	128	129	130	131	132
正答	2	5	3	2	3	4	1	4	5	2
問題番号	133	134	135	136	137	138	139	140		
正答	2	1	4	3	5	4	2	4		

法学										
問題番号	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70
正答	3	2	4	2	4	1	1	5	2	2

介護概論										
問題番号	141	142	143	144	145	146	147	148	149	150
正答	3	4	2	1	2	5	1	1	3	1

医学一般										
問題番号	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80
正答	4	5	5	2	1	3	3	5	1	5

国家試験合格者の声

弘永 正秀さん

平成14年3月、養成所第14期生としての入学許可を頂戴しました。67才でしたが、自分では高齢者という意識はまったくありませんでした。しかし、現実には毎月のレポート作成に追いまわされて、能力の限界を思い知らされる日々連続でした。

過去問題、サブノート、関連資料等々当初考えていた対策は何一つ手掛けることはできませんでした。ご承知の通り、レポート課題は中央法規のテキストを一通り読破しないと満足に作成できない内容となっています。自分では十分時間はあると考えて、少し横着に構えていましたが、これは大きな間違いでした。時間が足りないのです。気が付いた時には前期11月のスクーリングが終了してしまいましたが、納得のいく学習ができた教科は一つもありませんでした。

さらに、私のとって大きな不安材料は施設での現場実習でした。今迄に経験したことのない未知の分野であり、心細いことこの上もない状態でした。五島先生のご配慮で、市原市に在る知的障害者更生施設で実習を受けることになったのですが、この経験は私にとって大きな転機となりました。全身全霊を打ち込んで障害者に相対する施設職員の人達の姿に接したとき、自身の福祉の現場に対する認識の甘さに恥入るとともに、国家試験には必ず合格しようと決心しました。

現場実習が無事終了し、試験まで10ヶ月余りを残していましたが、自分に合った勉強方法として、中央法規のテキストを一教科につき4回精読すること、社会福祉小六法にできるだけ目を通すこと、以上の二点に注力することにしました。

幸運にも合格できましたが、これは五島先生をはじめ養成所の方々のご支援があったことです。心から御礼と感謝を申し上げます。

さあ、次は皆様の番です。頑張ってください。大成功を心よりお祈りいたしております。

永井 智樹さん

国家試験当日、会場にあふれんばかりの受験生に圧倒されてしまいました。そしてあちこちで「今回が(受験)何回目?」という会話を耳にしてさらにプレッシャーを感じました。それだけに社会福祉士の合格通知が届いて安堵したと同時に、これから自分が有資格者として責任を持った相談支援業務ができるだろうかという不安を抱えています。

受験勉強は計画を立てて用意周到に と思っていたものの、実際は業務に追われてなかなか受験勉強に取りかかれず、11月の模試は悲惨な結果でした。そこで出張時の電車内や就寝前の布団の中など、とにかく空いた時間にひたすら過去問やワークブックに目を通すようにしました。そして、わからない用語や主要な人名、年代を単語カードに書いて繰り返し覚えるようにしました。ただ、人名などは主要な業績と結びつけて覚えるのに必死で、「この人がどんなことをしたのかもっと知りたい」と思っても、そんな余裕はなく、ひたすら暗記することに終始しました。国試終了後、図書館で「糸賀一雄」「石井十次」などの自伝を読み漁り、その人となりを知ると同時に、時代背景や同世代に活躍した人達についても学ぶことができましたが、本来の学習はこうあるべきだったと反省しています。同様に社会福祉法などの関連法規や社会福祉協議会の役割などを学習する場合は、自分自身の業務と関連づけたり、地域で実務に携わっている人達と結びつけたりして覚えていくとわかりやすいし、実際の業務にも生かせました。これは机上の学習が中心となる学生より現任者の方が有利だと思います。

他の国家資格でも同じですが、資格は「箔がつく」というだけのアクセサリではありません。有資格者という意味合いでは新人もベテランも、施設職員も大学教授も同等に自他に責任を持った対応が求められるはずで、合格はゴールではなくスタートラインです。だからこそ、これから受験される方々は単なる暗記学習ではなく、実務にむすびつくような学習の仕方をして下さい。(大いなる反省を込めて)

下井 裕子さん

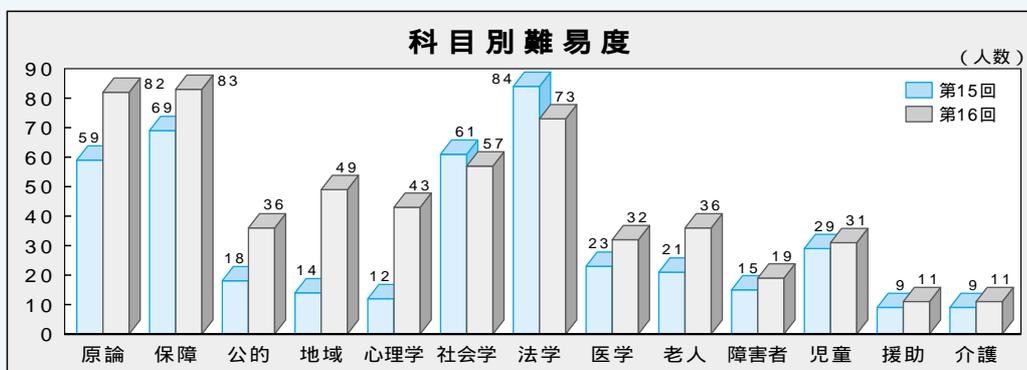
私が社会福祉士の講座を始めてから、はや2年が過ぎようとしています。初めは、今の仕事に活かせる知識を身につけたくて、勉強し始めました。養成校は昨年の夏に無事終了し、たくさんのことを勉強できたので、やはり試験を受けようと思い、受験勉強を始めました。

最初のころは、勉強する習慣をつけるため、毎日机に向かうようにしました。そのころは、テキストを読み返したり、養成校でもらった問題集などをなんとなく解いたりしていました。また友人から聞いた社会福祉士会主催の講習会に参加したりしました。秋ごろから問題にあたりました。養成校のスクーリングの先生が、過去問が大事だとおっしゃっていたので、過去問を一問ずつ解説を読みながら丁寧に解いていきました。その後、市販されている必携ノートなどを購入し、その中に問題の解説などで得た新たな情報を書き加えていったりしました。ノートには、おぼえたほうがよいことがまとまって載っていたので覚えるのに便利でした。過去問は、4年分を教科ごとにじっくりと取り組んだ後、1年分を通してやってみたりと繰り返しやりました。その他、試験になれるために模擬試験を受けました。法律改正などの新しい情報は、新聞等で気をつけて追っていましたが、なかなかどれが重要かわかりづらかったのです。ただ、同じ試験を受ける友人からまとまった情報をもらったり、自分なりにまとめることでクリアしていきました。友人同士で情報交換が出来たのは、良かったと思います。

歴史など、覚えるべき知識は直前になってからやりましたが、こうした暗記物は、早い時期にやっておいたほうが良かったかなと思います。

皆さんもこれから働きながらの勉強は大変だとは思いますが、自分なりのペースで、また、スクーリングなどで仲間を作りながら、無事試験を乗り切っていられる事をお祈りしています。

第16回国家試験に関するアンケートについて



平成15年9月に修了した第14期生346名を調査対象とし、204名(受験をした185名、申込をしたが当日受験をしなかった10名、申込をしなかった9名)からの回答が得られた。

左図は受験者の科目別難易度を示したグラフである。社会福祉原論・社会保障論・社会学・法学は受験者の多くが難しいと回答している。

残念ながら合格できなかった方々からの反省とコメント (アンケートより抜粋)

学習のポイントがしぼりきれなかった。過去問だけでは対応し切れなかった。残念です。 受験地には早めに行ったほうがよいと思います。過去問題を中心に勉強しましたが、第16回はほとんど違った問題が出ており困りました。 苦手分野はせめて5割。得意分野は10割を目指さなければと思いました。あと社会情勢にも敏感にならないといけなかったと思います。来年目指してがんばります。 毎日の積み重ねが大事ですね。今年は計画的にコツコツと勉強していきたいです。 学習の時間をいかに作るかがポイント。地道な努力あるのみです。

その他のコメントにつきましてはホームページに掲載しておりますのでご覧ください。

## ～ 専任教員の独り言～ 「コンピテンシー」



去る平成16年3月31日、第16回国家試験の合格発表があり、本養成所からは199名の方が合格されました。合格率28.5%(前年比-2.9ポイント)、得点の合格ラインは昨年の91点から85点まで一気に6点もダウンという難関でした。皆さんの学びに立会った者として改めてその難易度の高さに驚くと同時に、そんな中で合格を果たされた皆さんの頑張りに対し、心から敬意を表しますと共に、衷心よりお喜びを申し上げます。

また、16期生として入学された327名の皆さん、おめでとうございます。

実質競争倍率1.64倍の難関を突破しての入学です。この入学の志と喜びを忘れずに、2年後に国家試験合格者の仲間入りを目指して学習されることを切に期待いたします。

支援費制度のホームヘルプの予算が足りないという報道がこの一年何度と無くメディアを賑わせました。その都度、障害当事者達が予算獲得の直談判に乗り出しました。「利用者本位」「地域生活への移行」というパラダイムの転換を合言葉に進めている新しい福祉社会の構築は、果たして財源論に終始してしまうのではないかと危惧しているのは私だけではないでしょう。

こんな激動の時代だからこそ、社会福祉士の果たすべき役割について深く考えて行かなければなりません。本来利用者の最大の理解者、最良の支援者でなければならない社会福祉士が、時として人権侵害や暴力問題を起こしてしまう現実があります。福祉が与えられるものであった従来であれば、「貴方を思うあまり」とか「指導のため」といった言葉でかわしていましたが、今ではそうは行きません。そこで考えてほしいのが、「コンピテンシー」という概念です。

学歴や知識技能が、その道の業績に関係がない、むしろ価値観、性格、動機といったものが大きく影響するとしたこの概念、一言で表すならば「向き・不向きの世界」かもしれません。

社会福祉という業界での業績とは即ち「利用者の幸せ」です。それに向って邁進しようとする時、社会福祉士としての知識や技能を下支えするものが、皆さんの倫理観であったり、性格だったり、福祉の世界へ進もうとした動機だったりするのです。

対人援助を媒介とする福祉現場においては、利用者が享受する幸せの度合いは支援者の力量とイコールです。そしてその力量の中身は、一定の知識や技術といった目に見えるスキルだけではなく、他人には絶対に見ることの出来ない内在的な価値を含んだ総体であるということです。

最良の支援者であり続けるために、「利用者の幸せ」について真剣に思う価値観、性格、動機が自らに備わっているかどうか、今回資格を取得された方々も、これから資格を目指す16期生の皆様も、一度じっくりと自らの内面と向き合ってもらいたいと思います。

福祉は人なり.....

財団法人 日本知的障害者福祉協会  
社会福祉士養成所

専任教員 五島 秀一

### 訪問介護員 障害者(児)ホームヘルパー

養成セミナー

2級課程(通信)

8月・10月開講  
愛国生業集中!!!

あなたも豊かな福祉社会の担い手として活躍しませんか

ホームヘルパーは.....

- 拡大する介護需要の中で、実務に携わる若い手として大いに期待されています。
- 地域社会の身近な福祉専門職として高齢者や障害者の社会活動の支援をします。
- 介護は誰にでも訪れる人生の転捩期。ご家族の介護のために、習得した知識と技術が役立ちます。
- 知識と技術を活用した就業を得る機会(登録ヘルパー)が増大します。

セミナーの特徴

- 「訪問介護員」「介護保険対応」と「障害者(児)就労介護従事者」「支援費制度対応」の両方のホームヘルパー研修が同時に学習できます。
- 訪問介護員2級修了証と東京都指定障害者(児)ヘルパー2級修了証が同時に取得できます。
- 知的障害者福祉関係団体としての長い実績と経験が研修に反映されるため、知的障害者福祉に関する深い知識と確かな技術が身につきます(知的障害者福祉に関する独自のカリキュラムを設置)。
- 手厚な受講料と安心の研修体制。
- 通信教育による自宅学習と土曜日中心のスクーリング日程。

申し込み書類請求方法

当協会ホームページよりダウンロードもしくは下記宛にハガキ・FAXにて請求してください。

受講料 授業料 70,000円 テキスト代 6,800円

お問い合わせは ホームヘルパー養成所まで、財団法人 日本知的障害者福祉協会

平成16年度 購読のご案内

さほーと

知的障害福祉研究

- 毎月15日発行 ● B5判76ページ
- 1部 580円(税・送料)
- 年間購読料 6,300円(税・送料)
- ★当協会加入施設職員の方は5,000円で年間購読できます(1部470円)。

お申し込みは.....

当協会『さほーと』係まで

☎ 03-3438-0467 FAX 03-3431-1803  
<http://www.aigo.or.jp/support.htm>

### 平成16年度スクーリング日程

第16期生前期 : 平成16年7月5日～7日 / パシフィコ横浜

第15期生後 期 : 平成16年8月16日～22日 / パシフィコ横浜

第16期生前期 : 平成16年11月9日～12日 / パシフィコ横浜

養成所に対するお問い合わせ先

(財)日本知的障害者福祉協会 社会福祉士養成所

〒105-0013 港区浜松町2-7-19 秀和第二浜松町ビル6階

Tel: 03-3438-0984

ホームページアドレス <http://www.aigo.or.jp/>  
メールアドレス [yoseijo@aigo.or.jp](mailto:yoseijo@aigo.or.jp)

養成所に対するご要望・ご意見等ございましたら、ご連絡ください。